# 成果発表·情報共有

Group A

物性研 金子隆威

## 議題の目的(Combo+H中に集中)

- 他の格子系でも試したい
  - 2次元フラストレート系:とくに、三角格子Heisenberg模型の磁化過程
  - ・幾何学的フラストレーション効果? 1/3プラトーは再現される?
- Scoreや乱数の選び方で結果が変わるか調べたい
  - Score: TS (default), EI, PI
  - 乱数:6通り
- 他の物理量でも動作確認したい
  - 与えられた比熱を再現するような有効模型推定

#### アプローチ方法(他の格子系)

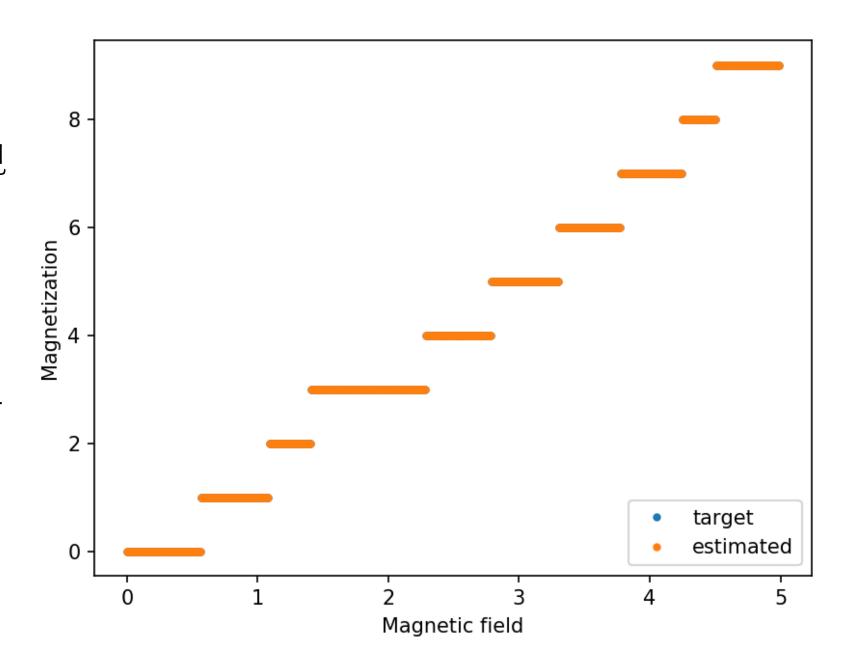
- 元のCombo+HΦコードを流用
- 1次元→2次元:1変数L→2変数(L,W)
- 飽和磁場が元々の模型と異なるので、 magnetic\_field=[0.01\*num for num in range(maxnum)] のmaxnumを適切に設定((L,W)=(6,3)のとき500でOK)
- x方向、y方向、x=y方向の相互作用をJ1, J2, J3に設定
- 6x3 sites、J1=J2=J3=1の結果を再現するか?
- J1, J2, J3を[0,2]区間でそれぞれ20刻み
- 最初の20 stepsは乱数、残りの80 stepsでBayesian最適化

## 結果

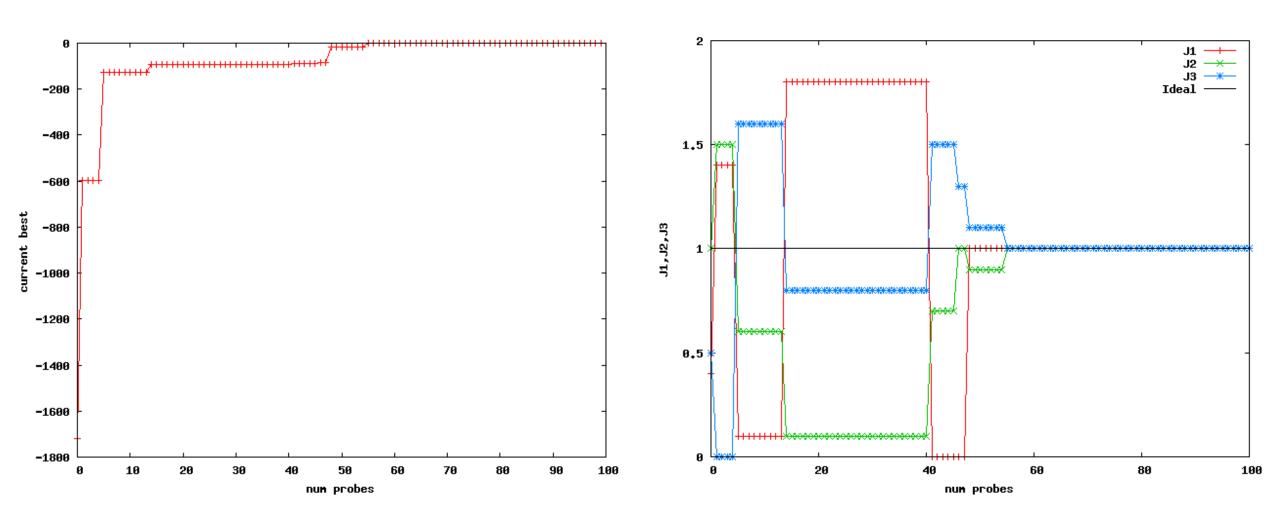
• 磁化過程を再現

• 1/3プラトー

J1=J2=J3=1を 正しく見つけて いた



## 結果 (Bayesian最適化過程)



### アプローチ方法 (Score・乱数依存性)

• 先ほどと同じ条件

- 乱数6通り
  - 1, 11, 111, 1111, 11111, 111111
- Scoreの選び方3通り
  - TS (default), EI, PI

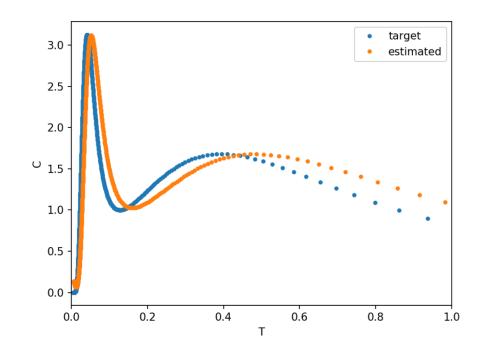
結果 (抜粋) (18通り、すべて正しく収束していた) TS J1 ——
J2 ——
J3 ——
Ideal —— J1 ——
J2 ——
J3 ——
Ideal —— 1.5 rnd111 11,12,13 11,12,13 0.5 num probes num probes num probes rnd1111 1.5

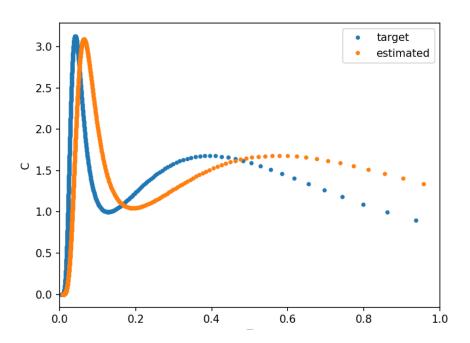
### アプローチ方法 (比熱による模型推定)

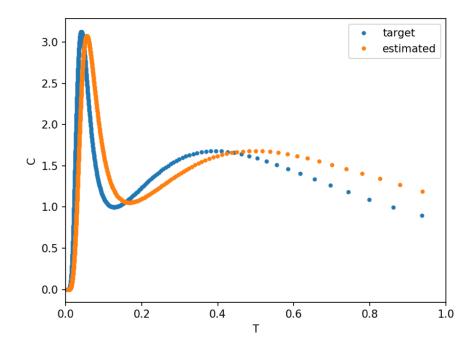
- Kitaev模型の比熱を用いて推定
  - ΗΦ Ø example: https://github.com/issp-centerdev/HPhi/tree/master/samples/TPQ/Kitaev
- TPQアルゴリズム使用
- 評価関数:  $\delta = \Sigma [(C-C_{target})^2 + (T-T_{target})^2]$
- 12 sites, Jx=Jy=Jz=-1の結果を再現するか?
- 区間[-2.1,-0.1]で20刻み (H=0になるJx=Jy=Jz=0は除外)
- 最初の20 stepsは乱数、残りの80 stepsでBayesian最適化

#### 結果

- 乱数3種類考慮
- 一致しない…

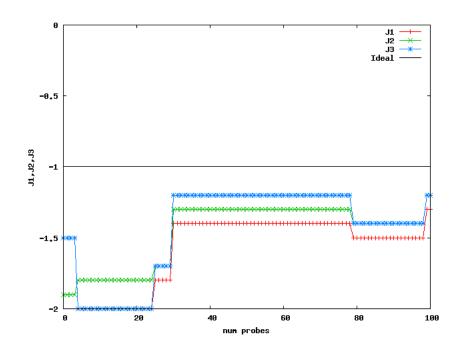


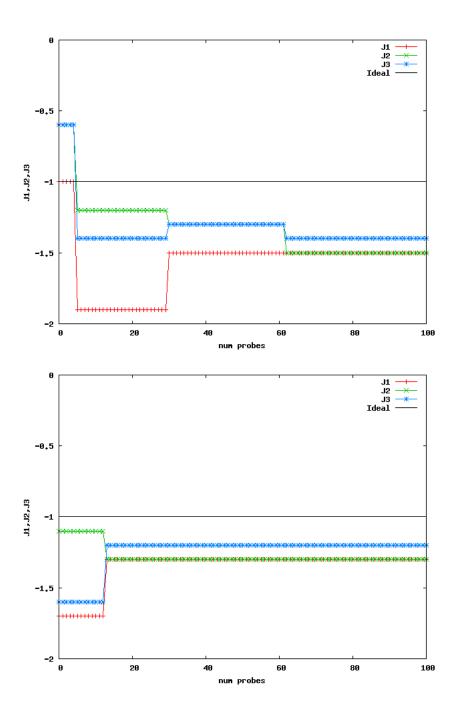




#### 結果

• Jx=Jy=Jz=-1から ややずれている…





#### まとめ

- 磁化を用いた模型の推定
  - 結果は良好
  - 複数の乱数から始めても、期待通り収束?
  - ・スコア依存性も小さい?
- ・比熱だと難しい?
  - 有限温度物理量だから?
  - 初めの乱数探索(現状20 stepsのみ)をもっと増やすべき?

### 困難だった点(あまり本質的でない…)

- Comboマニュアルなし→関数オプションが分かりづらい…
- Python力が足りなかった
  - HΦのTPQのデフォルト・スクリプトに0割りバグ…
  - matplotlibでinteractiveに図をdisplayせず、figure fileに描き出す方法が分からなかった

解決法:https://stackoverflow.com/questions/15713279/calling-pylab-savefig-without-display-in-ipython

import matplotlib # 追加

matplotlib.use('Agg') # 追加

import matplotlib.pyplot as plt

#fig = plt.figure(figsize=(10, 6)) # コメントアウト

• その他いろいろ…